

実践報告書

報告者氏名：中嶋 香代子 所属：中津川市立蛭川中学校 記録日：平成 30 年 2 月 5 日

キーワード：「やってもできない！」を「自分でもできる！」に

【対象時児の情報】

○学年/年齢 中学 2 年生/ 14 歳

○障がい名 注意力の継続に困難がある。

○障がいと困難の内容

- ・授業中は自席で過ごせるが、周囲の動きや音に過敏に反応してしまう。
- ・注意喚起をすると、短時間であれば課題に向かえるが、継続に困難がある。
- ・小学 3 年生の頃から未習熟の部分がある。
- ・自分の話は流暢にでき、友達も多いが、言葉の行き違いでトラブルになることもあった。
- ・学習を理解するように取り組んでいない時期が長く、未習熟の部分も深刻な状況であるため、中学 2 年の学習に向かうことができないでいる。
- ・小学校の時より勉強をしているのに、得点が思ったほど上がらない自分に対して、自信を無くしている。
- ・状況や情報をイメージ化して理解していくことへの困難が大きい。

【活動進捗】

○活動の当初の目的やねらい

- (1) 刺激を調整し、学習に向かえる環境を整える。
- (2) 学習空白を埋め、中学の学習に向かえるようにする。

○活動を実施した期間 平成 29 年 4 月～平成 30 年 2 月

○活動の実施者 中嶋 香代子

○実施者と対象生徒との関係 学校長

【活動内容と対象生徒の変化】

○対象生徒の事前の状況

中1	2 月	学年末テスト結果	数学	平均に対して 40%
			英語	37%
	3 月	実力テスト 結果	数学	17%
			英語	37%

・中学生になり、みんなと同じように勉強ができるようになりたい、高校へ進学したい、と強く思うようになった。小学校の時より、自分では自主学習もきちんとやって提出しているので、頑張っているつもりではある。しかし、思うように得点が伸びない自分に対してくやし涙を流すこともある。

5 月 URAWSS 実施

・6 年生用の URAWSS を実施した結果、6 年生の評価点を参考にした場合、以下の結果であった。

書き速度、有意味文 解答 40 字 A 基準 23 字 平均 31.3 標準偏差 9.1

無意味文 解答 37 字 A 基準 21 字 平均 29.2 標準偏差 8.2

読み速度 解答 804 字 A 基準 315 字 平均 445.5 標準偏差 131.3

読みの内容理解 6 問中 5 問正解であった。

- ・読み書きに困難さがあるとは考えにくい。
- ・言葉からイメージすることが苦手であるのではないか。
- ・1年生の 3 学期から塾で先行学習をしている英語は手応えを感じている。
- ・生活や仲間関係では問題が無いので、少しでも学習の遅れを解消し、自信をもたせたい。

○活動の具体的内容

(1) 刺激を調整し、学習に向かえる環境を整える。

第①ステージ：4月～6月期末テストまで 少人数指導

数学の授業を 5 名での少人数指導授業を受け、集中しやすくなった。しかし、集中が継続できない理解が難しい場面が毎時間あった。理解できないことに対して、本人から質問を投げかけるが、教師一人では、一人だけに付きっきりにはできないので、対応しきれない状況が続いた。

一方、英語の学習は、塾での先行学習を受け、一斉授業に参加。支援員が付いて支援している。コミュニケーション活動に参加できる。英単語の記入も丁寧に書けている。

6 月 23 日 1 学期末テスト結果 数学 平均点に対して 23 %
英語 44 %

第②ステージ：6月 27日～7月 31日 個別指導授業

- ・6月27日～7月20日 13 時間 個別指導実施
- ・7月 24日～7月 31日
3時間 夏休み補充個別授業実施
- ・SONY NOISE CANCELING MDR-ZX110NC を購入・使用した。
- ・一人で黒板に向かえる 6 畳の個室を用意した。



対象生徒「友達の姿が見えないので、集中できた。」

「黒板がすぐ前にあり、集中できた。」

※黒板が 1 m 以内にあること・余分な掲示がないことも意識して環境を整えた。

(2) 学習空白を埋め、中学の学習に向かえるようにする。

第②ステージ前半：6月 7日～7月 20日 個別指導で動画授業開始



神授業、1万本。
スタディサプリ

・言葉をイメージすることが苦手だと推測し、動画が有効であると考え、2種類の動画学習を採用した。

- 『ホントにわかる学園シリーズ』で中1,2の学習を補充。
- 『スタディサプリ』は、「夏休みの家庭学習用に継続使用ができればいい」という意図で実施。

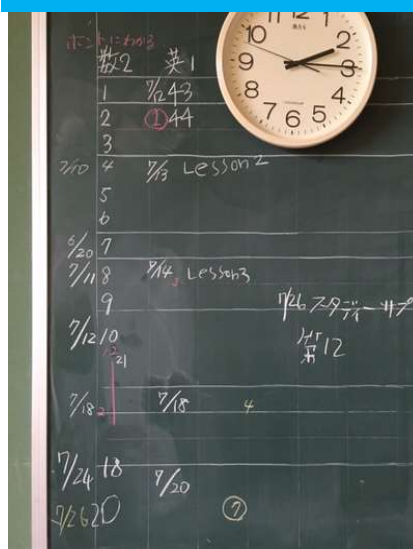
数学の個別学習	7/10, 11, 12, 18, 24, 26 計 7時間実施
	ホントにわかる学園 中2数学 ①から②①
英語の個別学習	7/12, 13, 14, 18, 20 計 5時間実施
	ホントにわかる学園 中1英語 ④③④④
	スタディサプリ 中学2年 ①～⑫

〇対象生徒の事後の変化

- 目的 (1) ノイズキャンセリングによる集中力の向上は顕著である。50分継続できることもあった。
- 目的 (2) 数学はホントにわかる学園シリーズが理解しやすい。自力でどんどん進むことができた。
- 英語は、ホントにわかるシリーズが易しいので、スタディアプリを使用。夏休みに自主学習ができる意図もあり、挑戦した。中1の学習の単元は、理解できていると言って、学習したくない様子であったので、中2の1学期の単元から学習を始めた。

対象生徒が後から(2月)に語った言葉

個別指導教室の黒板に残した
学習の足跡

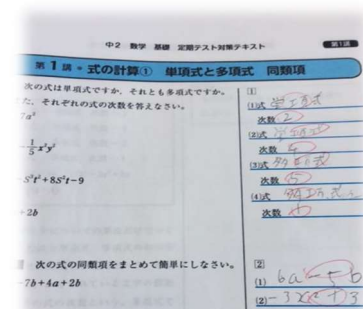


- ・(ホントにわかる学園で勉強したら)数学が(自分でも)こんなにわかるもんだとわかった。
- ・家に帰ってから、自主学習ノートにもう一度、学校でやったホントにわかる学園の練習問題をやり直して復習していた。

※2月になるまで生徒がそんな
努力を積み重ねていたとは、
知らなくて、驚いた。

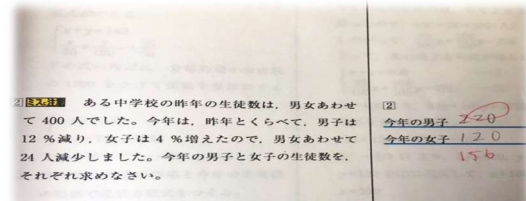
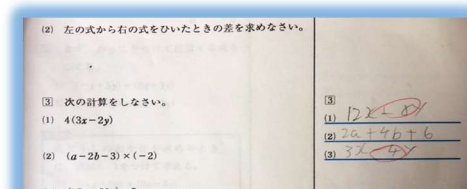
数学 スタディサプリ
2年生の1学期の単元では、
正解が多くなってきた。

基本的事項は習熟できた。



計算もできてきた

文章題も理解はしている。



小3より学習空白があるにも関わらず、IQが平均値であるという事実から、「本当は、普通よりできるかもしれないよ。と東大の先生たちに言われたよ。」と、言っているも励まし続けた。いつも「ふうーん」と、黙って聞いていたが、ほめられるのはうれしかったに違いない。

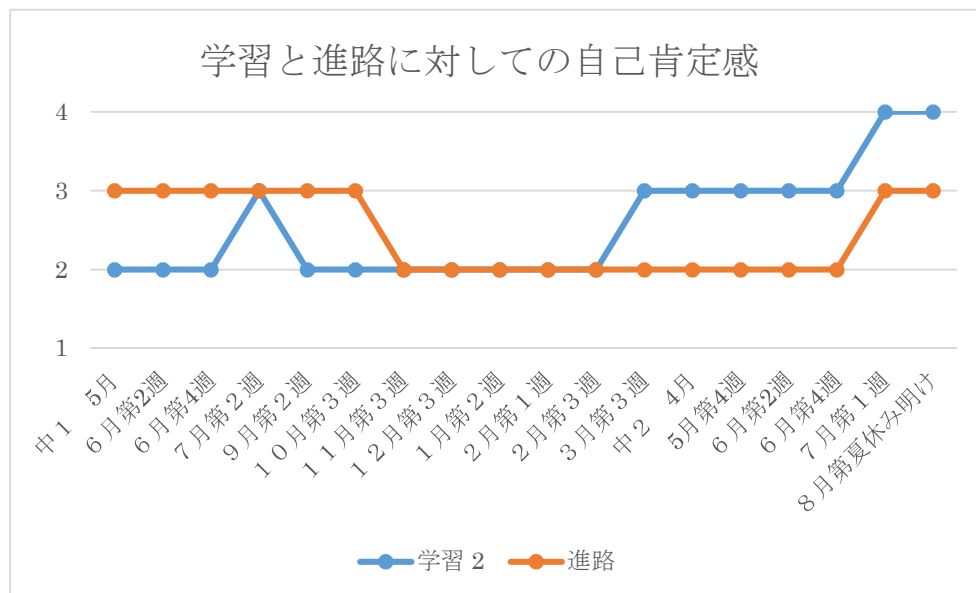
第②ステージ後半：夏休み中に学習空白を埋める 7月 21日～8月 27日 夏休み期間

7月 24日～ 7月 31日 個別指導補充学習 数学 6時間 スタディサプリ

8月 1日～ 8月 27日 学校の宿題のサマーワーク

- ・中2の学習内容まで補充学習で一通りは終了したので、8月は学校の宿題に集中させた。
英単語等、無料アプリを入れたiPadを夏休み中に持ち帰らせた。

○第2ステージまでの対象生徒の変化

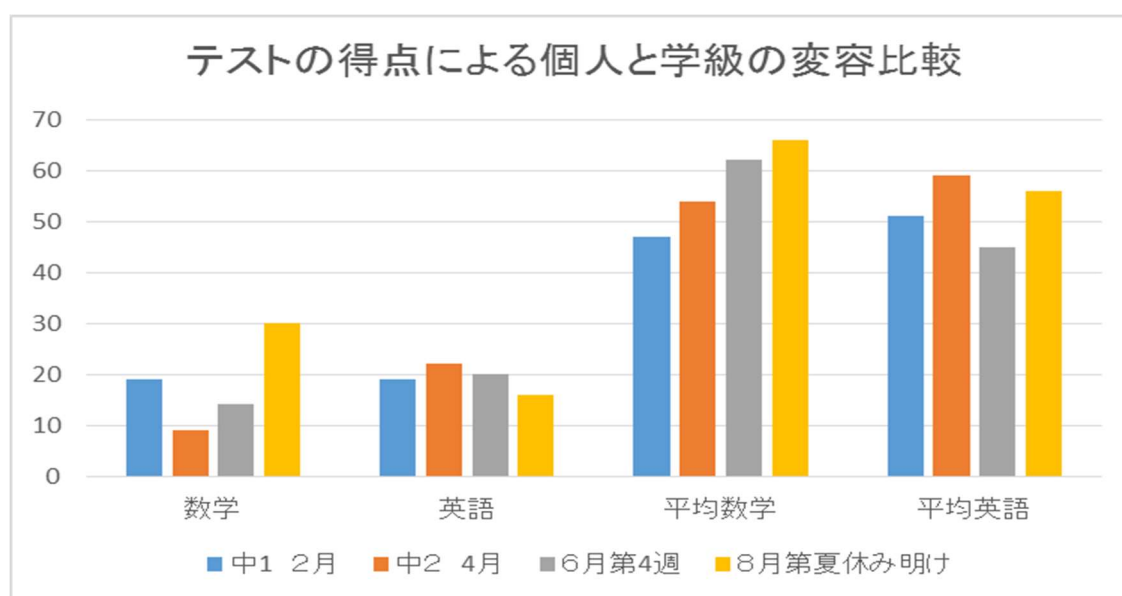


1: 大きく改善したい 2:工夫したい 3:この調子が続けたい 4:とても上手くいっている

※ 学習面と進路に対しての意識を自己評価した数値を示す。ここでは、数値が大きいほど自分に自信があると判断し、自己肯定感がある（自分には良いところがある）と考えた。

※ 学習や進路についての意識は、中1の2学期末テストの時期から2（工夫したい）が続いていたが、自主学習が毎日できるようになった中1学年末テスト終了後に学習は3（この調子が続けたい）に上昇し、さらに、iPad学習を開始した7月から学習4（とても上手くいっている）進路3（この調子が続けたい）に上昇している。

個別のiPadによる動画学習開始によって、自分でも理解できることに自信が付き、意欲に繋がっている。また、自主学習ノートに、学校での動画学習をした時の問題をやり直し、反復練習を積み重ねた。その努力の結果が数学では夏休み終了後から以下のように出始めた。



夏休み明け サマーワークテスト結果 平均に対して 数学 45% 英語 44%

・対象生徒の感想

英語はサマーワークではなく100問単語のテストのみだと思っていた。

夏休みはサマーワークを半分もやれなかった。テスト用の勉強はできていない。

でも、数学はいつもの倍の点がとれたので、うれしい。

- ・数学の計算問題については、7月中に学習したことが夏休み明けのテストで正答できているため、得点が2倍近くアップした。動画学習で理解し、自主学習で反復練習をしたことの成果である。文章題については、集中できる環境で支援があれば、理解をしていく。

- ・夏休み中の面談の機会が持てなかったため、iPadは家に持ち帰ったが、使用方法の説明や確認ができていなかった。そのため、使用をしていなかったようだ。

- ・学校の宿題で手一杯であることが想定されたので、強力に使用することを要請することは控えた。

しかし、一人では宿題も満足にできなかったようだ。

時間が足りない中学校では、焦って得点を上げることばかりに目が向いてしまう。

だが、最優先されるべきことは、卒業後も一人でも学習に向かえるように力を付けること、そして、将来困った時に、自力で解決する方法を身に付けておくことである。

第③ステージ 2学期9月の取組

URAWSS-English vocabulary を実施した。結果は以下のようである。

E→J 課題 ① 5/20 評価B ② 14/20 評価A

差分 9 よって、音声読み上げの効果あり

J→E 課題 ① 2/20 評価C ② 8/20 評価C

差分 6 よって、ややカナ表記の効果あり

- ・英語は、耳から入るので、本人に苦手意識がない。しかし、文字での理解となると壁があるので、得点に繋がっていないのが現状である。音声読み上げ機能の活用を考える。
- ・J→E課題の ①評価C ②評価C という結果から、手引きには、「日本語の読み書きに困難がないか調べるとよい。」とある。

そこで、URAWSSⅡ小学6年生以上の検査を実施した。以下はその結果である。

書き速度 1分間 44文字 評価A 中学2年 平均39.8 標準偏差 11.4

読み速度 1分間 768文字 評価A 6年以上 平均445.5 標準偏差131.3

読み課題 6問中 5問正解 音声読み上げの場合 6問中 6問 全問正解

前回の結果同様、日本語の読み・書きについて困難があるとは言えない結果となった。

- ・9月13日 個人面談実施 本人の希望を聞く。

「全部覚えるのではなく、学習して理解していることを完璧に回答できるようにしていきたい。」

根底には、仲間と同じことがやりたい。仲間にはできないと思われたくない。という思いが強い。

しかし、今回の取り組みで自分に自信がついたので「あせらず、自分のできることを完璧に答えることができるようにしていけばいい。」という思いに達している。

そこで、少しでも学習の基本が身に付くような手段を考える。

(1) 刺激を調整し、学習に向かえる環境を整える。

- ・数学の授業では、6月まで受けていた少人数学習（5人）に参加する。

そこで、既習事項の復習が必要な場合には、教室の後ろで作業台に置いてあるiPadとノイズキャンセリングを使用できる環境を整える。また、抵抗なくiPadが使用できるように、2台のiPadとノイズキャンセリングを用意し、5人が自由に使用できる環境にしておく。（実際の使用は、ほとんど対象生徒であると予想している。）

(2) 学習空白を埋め、中学の学習に向かえるようにする。

目的：自分に適した学習する手立てを選択し、身に付ける。

- ・学校で、分からない部分を補充する方法が分かる

数学の少人数学習時に、わからない部分が出て来た時、iPadのある後ろの机に行き、ヘッドホンをしてホントにわかる学園で復習が必要な項目を自分で確認する。

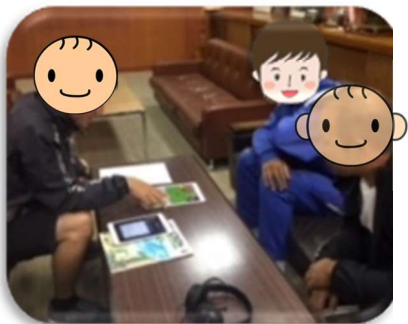
理解できた後、少人数学習に復帰する。

(ホントにわかる学園の1項目の学習は、5～7分程度であるので、理解できない時に自分で判断してiPadを使用し、授業に戻ることが可能である。)

対象生徒は特別なことを嫌がるので、一人だけ自分から補充学習をする為に、後ろのiPadのところへ行くことはなかなかできなかった。数学の指導教諭(担任)に言われて渋々行く程度であった。しかし、予想外であったのは、他の生徒が興味をもち、自分から進んで後ろのiPadの置いてある机まで補充学習に行く姿が現れ始めた。すると、わからないことは補充学習にタブレットを使用すればよいという空気が生まれた。

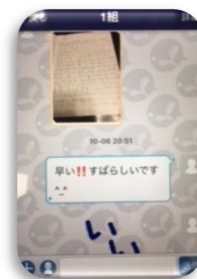
第③ステージ2学期 10月～家庭での学習を工夫

4者(実践者・本人・担任・保護者)が集まり、1週間の家庭での学習の計画と方法を相談する。



(1) 刺激を調整し、学習に向かえる環境を整える。

- ・家庭での学習支援として、By Talk For Schoolをセットし、家庭学習の内容のアドバイスや励ましと見届けを行う。



懇談当日の夜から、自主学習ノートの内容3～5ページを写真に撮って送信が始まる。必ず褒めて返した。

(2) 学習空白を埋め、中学の学習に向かえるようにする。

- ・読み上げ機能を利用して、先行学習を行う。

家庭学習にAccessReadingの英語を使用して先行学習ができるようにする。(本人の希望で理科・社会も依頼した。とても意欲的になっている。) iBooksで見てハイライトを使用し、わからなかった部分を「メモ」として紐付け、見直せるようにする。

※日本語に困難が見られない為、許可されたのは、英語のみであった。英語はセットした。

・紹介したアプリ

自分で学習ができるようにアプリを活用



・英単語スペル3600

学年別・種類別で単語を選択し、アルファベット1文字ずつ入力し、スペルを完成して行くアプリ

・英語物語

日本語と英語の単語を選択して行く一般的なアプリ。ゲームの要素が強く他の生徒の中で一番人気であった。

・BINOBA地理・歴史・理科2

単元別を選択、重要語句を覚えるのに最適

対象生徒の感想

教科書を見るだけでは、どこを学習するとよいのかわからなかった。

しかし、アプリで学習するようになり、重要な語句がわかり、覚えればよいところがはっきりわかるようになった。だから、アプリで出てきた内容を自主学習ノートに書いてひたすら覚えた。

だから自主学習が5ページもできるようになった。それを写真に撮って送り続けた。

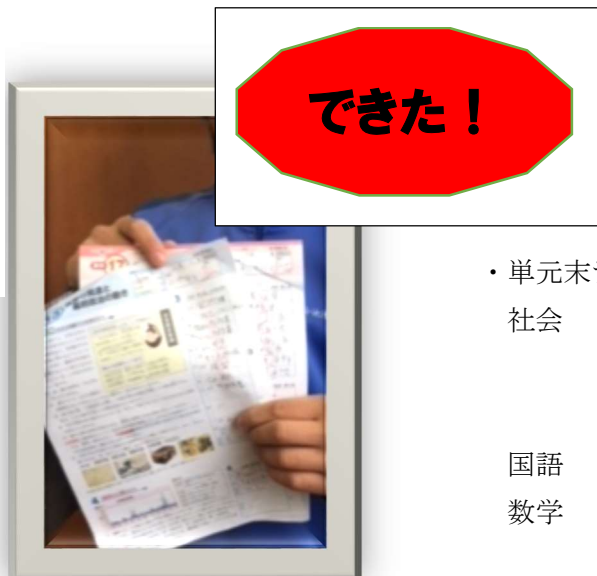
でも、いつも同じ内容の写真ばかりなので送信することをやめたんだ。

※ローマ字入力の練習をする時間があるとよいが、今は余裕がないので、継続を諦めた。

○第③ステージ 対象生徒の変化 12月 2学期末期

社会で100点と
70点とれた！
国語は50点、数
学は40点！

徹底的に覚えるように
工夫して、毎日2時間
以上自主学習している
んだ！
！

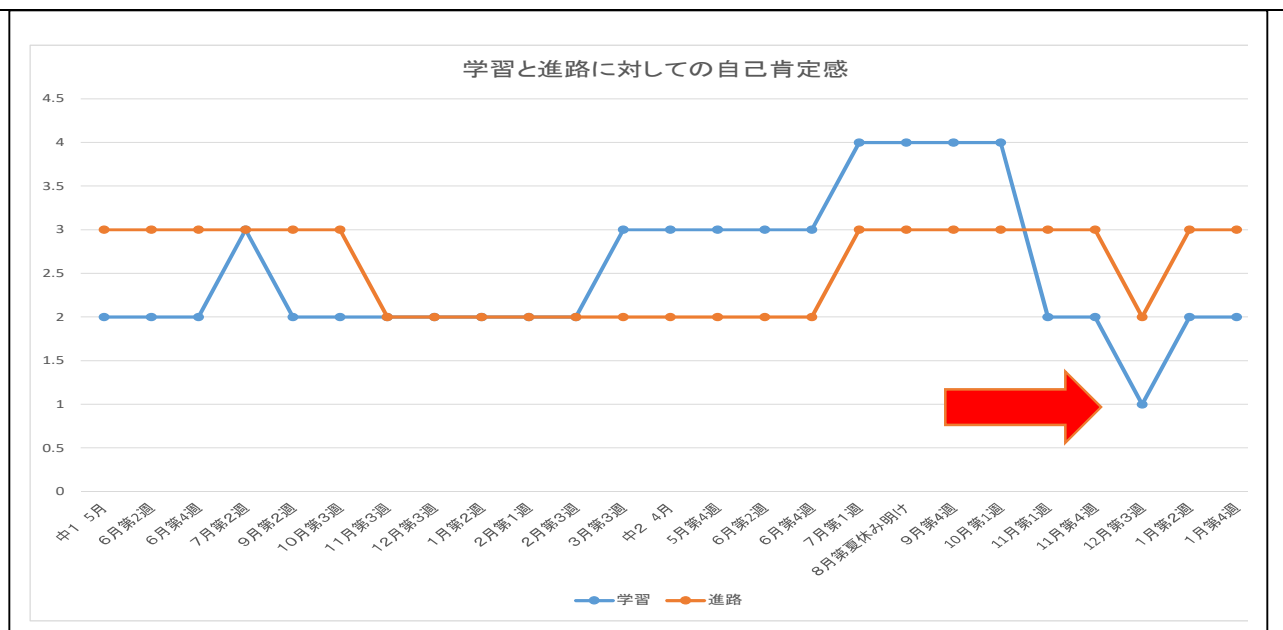


・単元末テストの結果

社会 100点
70点

国語 50点
数学 40点

高得点がとれるようになってきた。

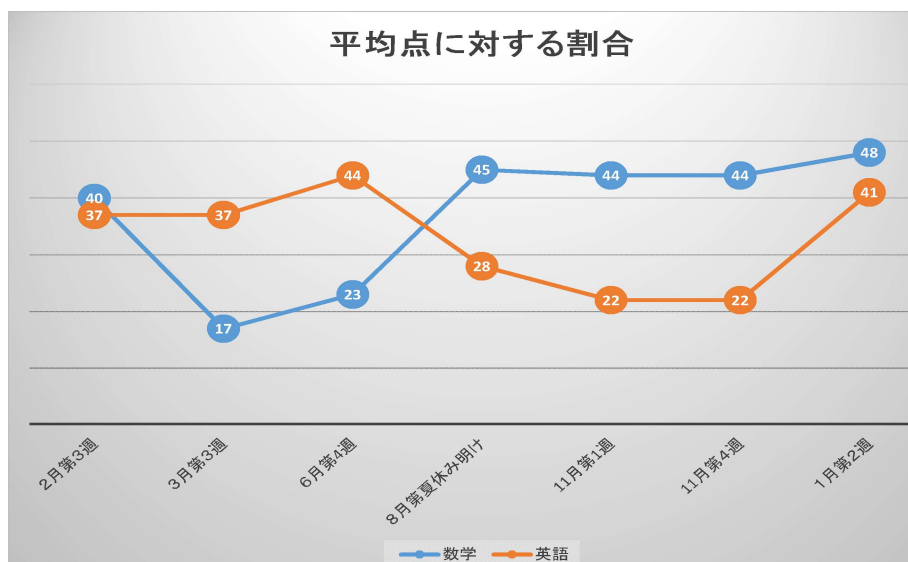


しかし、自己肯定感は、学習1進路2に低下した。高得点が自分でもとれることを実感したにもかかわらず、である。その質問をしたところ、対象生徒は、次のように答えた。

「もっと勉強を頑張りたい。もっとテストでいい点を取りたい。そのためにもっと授業を理解してやっていきたい。これからはノートも工夫してとりたい。家庭学習2時間半以上やっているのに、何でこの点しかとれないのか。実力テスト、2学期の期末テストの点では、満足していない。」

得点が上がってきたが、「勉強ができるようになりたい。」から、「みんなと同じように平均点はとりたい。」と、自分でさらに高い目標を設定した。平均点まで達しない自分に対して「1」と評価している。

第④ステージ 冬休み以降



・冬休みは高校入試用の5教科の問題集の取組が始まった。

その為、特に指導や助言はしていない。

・冬休み明けに、岐阜県の学力学習状況調査に向けての実力テストが実施された。これは1.2年全部の範囲である。この結果が1月のテスト結果として記入してある。

○対象生徒の変化

数学は、安定して得点できている。いよいよ30点台に突入していきそうな勢いである。

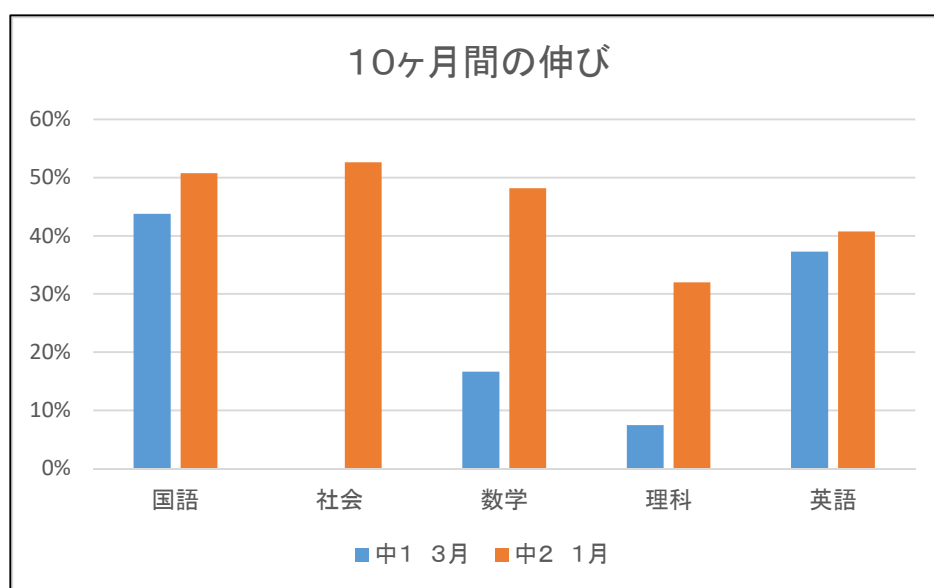
英語は、1月になり、上昇傾向になってきた。

得点の上昇に伴い「やればできた!」と自信も増し、学習進路についての自己肯定感も復活してきた。

【主観的気づきとエビデンス】

数学・英語について指導を入れてきたが、社会の単元末テストでも得点が上がってきたことから、5教科について比較してみた。実力テストの得点の平均点に対する割合を以下にまとめ、伸びを出してみた。

	国語	社会	数学	理科	英語
中1 3月	44%	0%	17%	8%	37%
中2 1月	51%	53%	48%	32%	41%
伸び【倍】	1.2	53.0	2.9	4.3	1.1



やはり、5教科とも学力が向上している。その理由を対象生徒の発言から考察する。

- ① 「ホントにわかる学園」の動画学習により、数学が自分でも理解できることが実感でき、意欲がわいた。(7月・数学)
- ② 教科書だけでは、どこが重点なのか、どれを覚えるとよいのかが判別できなかった。しかし、アプリに取り組むことにより、アプリに出てくる語句を覚えるとよいとわかり、それを覚えた。
(10月以降 理科・社会・英単語)
- ③ 動画学習・アプリ学習でやったことを必ず、自主学習ノートに書いて復習した。
(7月以降 数学・10月以降 理科・社会・英単語・漢字)
- ④ 英語は、7月頃から塾に行く前に前回の復習をして行き、塾で授業の予習・復習をしてもらい、帰ってきてから復習をしている。その努力が半年経って実り始めたのかもしれない。

⑤ 10月以降、自分の学習の苦手な部分を補うように、iPadに入れてあったアプリの中で、誰に指示されていなくても自分で選択し、使用していた。

数学トレーニング 漢検トレーニング ・特に数学では、小学4年・6年・中1の補充だけでなく、アプリで先行学習もやっていた。



中2の確率の学習について10月に自分で先行学習をしており、2月現在、確率の授業内容がよく理解できると言っている。

- ・これこそ、卒業後も一人でも学習に向かえるように力を付け、将来困った時に、自力で解決する方法を身に付けておくことの目標に一步近づいた行動であったと言える。この対象生徒の自立に私も保護者も驚きと同時に深い感動を覚えている。
- ・大人が与えるレベルのアプリより、難しいアプリに挑戦していた事実から、大人が「このレベルがちょうどよいだろう。」と先入観で決めつけることの怖さを感じた。
「生徒は、大人の予想を超えた成長の可能性がある。」と、今更ながら感じた。
- ・対象生徒は、2月現在、1年前より上昇した今の成績では、全然満足していない。
「みんなと同じように、平均点ぐらいは取りたい。」と、目標を掲げ、1日2時間以上の学習を続けている。
- ・保護者（父親）も、家庭では学習している近くで見守り続けている。

この意欲になんとか応えることができないものかと悩む。

今後、英語の書く力を付ける有効な手段も、さらに追究していきたい。